

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	1
2 委員の辞任	1
第 2 各部・各委員会等報告	
1 部会の開催とその議題	1
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	1
3 機能別委員会の開催とその議題	2
4 分野別委員会の開催とその議題	3
5 課題別委員会の開催とその議題	10
6 若手アカデミーの開催とその議題	10
7 サイエンスカフェの開催	10
8 総合科学技術・イノベーション会議報告	11
9 インパクト・レポート	11

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
6月2日(火) ～6月7日(日)	世界科学フォーラム (WSF) ステアリングコミ ッティー (ハンガリー・ブダペスト)	花木副会長
6月11日(木)	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
6月15日(月)	ヨルダン国王即位16周年及び第69回独立記念レ セプション (ホテルオークラ アスコットホー ル)	大西会長

(注) 部会、委員会等を除く。

2 委員の辞任

○地球惑星科学委員会 IUGG 分科会 IAG 小委員会

市川 隆一 (平成27年5月28日付)

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

(1) 第二部役員会 (第2回) (6月19日)

①「学術振興の観点から国立大学の教育研究と国による支援のあり方を考える
検討委員会」、「生命科学における公的研究資金のあり方検討分科会」あるいは
「学術研究推進のための研究資金制度の在り方に関する検討委員会」などに
ついて

②大型研究計画分科会について ③夏季部会について ④その他

(2) 第三部拡大役員会 (第7回) (6月19日)

①「科学技術の光と影の解明 (仮題)」について ②その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

(1) 大学教育の分野別質保障委員会 (第1回) (5月22日)

①委員長等の選出 ②参照基準について ③その他

(2) フューチャー・アースの推進に関する委員会 持続可能な発展のための教

育と人材育成の推進分科会（第1回）（6月2日）

- ①出席委員自己紹介 ②委員長の選出、副委員長・幹事の指名
- ③分科会における課題及び運営について ④その他

（3）東日本大震災に係る学術調査検討委員会（第2回）（6月8日）

- ①東日本大震災に係る学術調査の代表事例について
- ②アンケート作成について ③今後の進め方と日程について ④その他

（4）フューチャー・アースの推進に関する委員会 フューチャー・アースの国際的展開対応分科会（第3回）（6月18日）

- ①Core Projects Leaders との交流会合のフォローアップ、FE ステークホルダーとの対話に係る分科会委員の派遣について

3 機能別委員会の開催とその議題

（1）科学と社会委員会 課題別審議検討分科会（第5回）（5月22日）

- ①高レベル放射性廃棄物の処分に関するフォローアップ検討委員会の設置期限の延長及び委員（特任連携会員）の任期の延長について ②その他

（2）国際委員会 防災・減災に関する国際研究のための東京会議分科会（第4回）（5月22日）

- ①国際委員会防災・減災に関する国際研究のための東京会議分科会（第3回）議事要旨（案）について
- ②提言骨子について ③IRDR の活動について ④その他

（3）科学者委員会・科学と社会委員会合同 広報・科学力増進分科会 高校理科教育検討小委員会（第2回）（5月23日）

- ①提言案の検討 ②その他

（4）科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会（第2回）（6月3日）

- ①第23期「学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン」策定にあたってのアンケートについて
- ②その他

（5）選考委員会（第2回）（6月5日）

- ①前回の議事要旨の確認 ②定年により退任する会員に係る選考について
- ③次回改選の基本方針について ④その他

(6) 国際委員会 防災・減災に関する国際研究のための東京会議分科会 (第5回) (6月5日)

- ①国際委員会防災・減災に関する国際研究のための東京会議分科会 (第4回) 議事要旨 (案) について
- ②提言骨子について ③IRDR の活動について ④その他

(7) 科学者委員会 (第9回) (6月16日)

- ①「女子中高生夏の学校 2015」の開催に際し、科学者委員会広報・科学力増進分科会及び同男女共同参画分科会が共催する件
- ②「第13回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム」を日本学術会議として後援する件
- ③九州・沖縄地区会議科学者懇談会・学術講演会の件

(8) 国際委員会 (第11回) (6月18日)

- ①国際業務に参画するための特任連携会員の推薦について

(9) 科学者委員会 男女共同参画分科会 (第5回) (6月19日)

- ①内閣府からの審議依頼に対する回答への対応について ②その他

(10) 国際委員会 Gサイエンス及びICSU等分科会 Gサイエンス学術会議 (2016) 対応小分科会 (第1回) (6月19日)

- ①役員の選出について ②Gサイエンス2016の準備の方針について ③その他

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) 政治学委員会 政治思想・政治史分科会 (第2回) (5月23日)

- ①公開シンポジウム「平等論とデモクラシーの現在」の開催について
- ②今後の事業計画など
- ③その他

(2) 経済学委員会 「持続的発展のための制度設計」分科会 (第2回) (5月26日)

- ①報告：森田朗先生 ②報告：井伊雅子先生 ③その他

(3) 哲学委員会 哲学分野の参照基準検討分科会 (第6回) (5月28日)

- ①参照基準原案の検討 ②その他

(4) 法学委員会 「グローバル化と法」分科会 (第2回) (5月31日)

- ①外務省国際法局国際法課長・御巫智洋氏による報告
「外交実務における法と法曹への期待」(仮題)
- ②今期の審議方針 ③その他

(5) 第一部 科学と社会のあり方を再構築する分科会 (第2回) (6月1日)

- ①諸提言・報告のレビューについて ②今後の進め方について
- ③その他

(6) 経済学委員会 ワーク・ライフ・バランス研究分科会 (第2回) (6月2日)

- ①今後の進め方
- ②報告
・大石 亜希子先生
「各分野におけるワーク・ライフ・バランスの位置づけ」(30分程度)
- ・宇南山 卓先生
「職業と出産の両立可能性と少子化」
- ③その他

(7) 社会学委員会 社会福祉学分科会 (第3回) (6月4日)

- ①社会的紐帯が弱い人々への支援の在り方に関する事例報告(野口委員・原田委員)
- ②その他

(8) 史学委員会 歴史学とジェンダーに関する分科会 (第3回) (6月5日)

- ①「歴史を読み替える ジェンダーから見た日本史」書評会
- ②書評を通じて見えてくる本分科会の課題について ③その他

(9) 経営学委員会 ダイバーシティと仕事のあり方に関する検討分科会 (第3回) (6月7日)

- ①下崎千代子委員による講和「ダイバーシティと仕事のあり方について」
- ②その他

(10) 哲学委員会 哲学分野の参照基準検討分科会 (第7回) (6月8日)

- ①参照基準原案の検討 ②今後の進め方について ③その他

(11) 社会学委員会 東日本大震災の被害・影響構造と日本社会の再生の道を探る分科会 (第4回) (6月12日)

①研究会の開催

震災の影響と法的問題について 佐藤岩夫（第一部会員）

戦後日本の開発体制と災害について 町村敦志（第一部会員）

②その他

(12) 心理学・教育学委員会 心の先端研究と心理学専門教育分科会（第2回）
（6月13日）

①分科会事業計画について ②その他

(13) 史学委員会 科学・技術の歴史的理論的社会的検討分科会（第3回）（6月14日）

①第23期分科会の課題の検討 ②その他

(14) 史学委員会 IUHPST分科会（第3回）（6月14日）

①2015年度国際大会派遣について ②今後の活動方針 ③その他

(15) 法学委員会 大規模災害と法分科会（第2回）（6月15日）

①目黒委員からの報告 ②目黒委員報告を受けてのディスカッション

③その他

(16) 史学委員会 高校歴史教育に関する分科会（第3回）（6月19日）

①中教審の動向などについて ②「歴史基礎」について ③その他

第二部担当

(1) 心理学・教育学委員会・基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 行動生物学分科会（第1回）（5月22日）

①役員の選出について ②今後の活動について ③その他

(2) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 IUAB分科会、同生物物理学分科会（第2回）合同会議（5月27日）

①ABA（中国杭州で開催）の報告

②学術フォーラム、公開シンポジウムの開催について

③前期「報告」を「提言」に練り直すことについて

④次回分科会の開催予定について ⑤その他

(3) 農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会合同 食の安全分科

会（第2回）（5月28日）

- ①話題提供「レギュラトリーサイエンスの人材育成—アメリカの獣医学教育」吉川副委員長
- ②話題提供「食品安全委員会のリスクコミュニケーションのあり方検討会の報告」有路幹事
- ③分科会の課題活動について ④分科会の運営について ⑤その他

（4）農学委員会・食料科学委員会合同 IUSS分科会（第2回）（6月1日）

- ①副委員長、幹事の任命 ②その他

（5）農学委員会 土壌科学分科会（第2回）（6月1日）

- ①国際土壌年への対応 ②その他

（6）臨床医学委員会 放射線・臨床検査分科会（第2回）（6月5日）

- ①病理診断の現状 ②イメージサイエンスについて ③医療被ばくについて
- ④その他

（7）薬学委員会 生物系薬学分科会（第2回）（6月5日）

- ①次回のシンポジウム〔平成28年1月8日（金）午後、日本学術会議講堂〕に向けて
- ②その他

（8）心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同 子どもの成育環境分科会（第3回）（6月10日）

- ①分科会委員の構成について
- ②成育コミュニティの課題と提言についての最終確認
- ③省庁担当部局のヒアリングについて ④その他

（9）食料科学委員会 獣医学分科会（第3回）（6月11日）

- ①「提言」あるいは「報告」について
- ②23期大型研究マスタープランについて ③その他

（10）歯学委員会（第4回）（6月15日）

- ①今期の活動計画について ②今後の公開シンポジウムの開催計画について
- ③日本歯学系学会協議会との連携について
- ④日本歯科医学会との連携について ⑤各分科会の活動計画について

⑥その他

(11) 農学委員会・食料科学委員会合同 農業情報システム学分科会 (第3回)
(6月15日)

- ①WGの活動報告 ②学術フォーラム(宮崎)について
③次回分科会(宮崎)について ④その他

第三部担当

(1) 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IGBP・WCRP・DIVER
SITAS合同分科会 SPARC小委員会 (第1回)(5月24日)

- ①委員長、幹事の選出 ②日本学術会議 IWD 分科会報告
③日本気象学会専門分科会報告 ④SPARC GA(2018年10月)開催について
⑤関連会議の確認等 ⑥その他

(2) 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IGBP・WCRP・DIVER
SITAS合同分科会 CLIC小委員会 (第1回)(5月25日)

- ①委員の紹介 ②委員長、幹事の選考 ③CLICの現状 ④今後の活動

(3) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する安全・安心・
リスク検討分科会 老朽及び遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価とリ
スク管理に関する小委員会 (第2回)(5月25日)

- ①委員長挨拶
②第23期第2回総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する
安全・安心・リスク検討分科会(5月11日開催)の概要報告
③話題提供
海外の化学兵器処理の現状紹介 朝比奈 潔 委員
④安全工学シンポジウムOS (Organized Session) の発表課題について
⑤その他

(4) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 計算科学シミュレーションと工学
設計分科会 ポストペタスケール高性能計算に資する可視化処理小委員
会 (第1回)(5月26日)

- ①日本学術会議 公開シンポジウム第1回 可視化シンポジウムについて
②国際会議 SIGGRAPH ASIA 2015 について ③今後の進め方 ④その他

(5) 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IGBP・WCRP・DIVER

RSITAS合同分科会 IGAC小委員会（第1回）（5月26日）

- ①IGAC 研究推進会議の報告 ②IGAC 関連の新規プロジェクトについて
- ③国際共同観測計画について ④IGAC 国際会議の招致について ⑤その他

**（6）法学委員会・経済学委員会・土木工学・建築学委員会合同 知的生産者の
公共調達検討分科会（第2回）（5月27日）**

- ①分科会委員の構成について ②情報収集と討議のための論点整理 ③その他

**（7）土木工学・建築学委員会 地方創生のための国土・まちづくり分科会（第
3回）（5月28日）**

- ①地方創生の支障となる法制度と改善提案について ②今後の予定

**（8）環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IGBP・WCRP・DIVER
RSITAS合同分科会 GLP小委員会（第1回）（5月29日）**

- ①役員の選出 ②委員の追加 ③GLP の動静 ④今期の活動方針 ⑤その他

**（9）機械工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 IUTAM分科会（第1
回）（5月29日）**

- ①分科会の主旨説明と委員長等の選出 ②企画小委員会の発足について
- ③力学基盤工学の運営体制と本分科会との連携について
- ④理論応用力学講演会及び理論応用力学シンポジウムの開催について
- ⑤ICTAM2016 について ⑥今後の活動
- ⑦その他

**（10）総合工学委員会 エネルギーと科学技術に関する分科会（第2回）（5月2
9日）**

- ①分科会の今後の活動について ②小委員会の設置と活動について ③その他

（11）化学委員会 物理化学・生物物理化学分科会（第2回）（5月29日）

- ①第23期の活動方針 ②他の分科会との連携活動について ③その他

**（12）土木工学・建築学委員会 インフラ健全化システム分科会（第2回）（6月
2日）**

- ①分科会の活動方針の審議（戦略的提言の発出に向けて）
- ②関連情報の報告 ③今後の予定など

（13）総合工学委員会 総合工学企画分科会（第1回）（6月3日）

①今期総合工学委員会の活動について

- (i) 知の統合分科会のこれまでの活動状況と課題の把握
- (ii) 分科会における参照基準作成の検討

②その他

(14) 土木工学・建築学委員会 土木工学・建築学企画分科会 (第3回) (6月4日)

- ①各分科会の活動状況報告 ②第169回総会の報告
- ③第23期土木工学・建築学委員会の活動計画の審議
- ④その他 (シンポジウムの案内など) ⑤次回の予定

(15) 情報学委員会 情報科学技術教育分科会 (第2回) (6月6日)

- ①情報学分野の参照基準について ②情報教育の参照基準について ③その他

(16) 木工学・建築学委員会 国土と環境分科会 (第3回) (6月8日)

- ①関連分科会との連携方策 ②今期のロードマップ ③その他

(17) 環境学委員会 都市と自然と環境分科会 (第3回) (6月11日)

- ①提言についての今後の取り組みについて
 - ・日本スポーツ振興センターからの回答について
 - ・東京都、オリンピック組織委員会への周知について
 - ・マスコミ関連
 - ・NPOとの協働について

②その他の活動内容について

(18) 地球惑星科学委員会 IUGS分科会 (第3回) (6月11日)

- ①国連防災世界会議ワークショップの総括とアクションプラン
- ②地学オリンピック、ジオパークなどの活動について
- ③各小委員会活動報告 ④その他

(19) 総合工学委員会 未来社会と応用物理分科会 (第2回) (6月12日)

- ①23期3年間の進め方と、分科会で議論すべきテーマについて
- ②テーマ1 応用物理とは何か、応用物理の定義について

(20) 土木工学・建築学委員会 知的創造と活動を喚起する環境としての大学等
キャンパスに関する検討分科会 (第2回) (6月12日)

- ①役員人事について

②鈴木賢次郎先生より話題提供（(独)大学評価・学位授与機構大学機関別認証評価担当）

「大学キャンパスの設備、建物、教職員・学生にとって魅力あるキャンパスの整備、国際競争力のあるキャンパス整備、キャンパス整備の組織体制、地域との連携など」機構が行っている評価について

③自由討論 ④今後の予定

(21) 材料工学委員会 材料の循環使用検討分科会（第1回）（6月12日）

①役員の選任 ②今期の活動方針（特にシンポジウムの開催について）

③その他

(22) 環境学委員会 環境政策・環境計画分科会（第3回）（6月15日）

①森口先生による話題提供『大震災・原発事故からの復興における長期的・横断的視点の必要性和学術の役割』

②今後の進め方について（小委員会の設置について）

5 課題別委員会の開催とその議題

(1) オープンサイエンスの取組に関する検討委員会（第3回）（6月15日）

①先例紹介

- ・天文学における世界規模のデータ共有
- ・微生物・環境データの統合化と今後の展開

②その他

6 若手アカデミーの開催とその議題

なし

7 サイエンスカフェの開催

日 時：5月22日（金）19:00～20:30

場 所：文部科学省情報ひろばラウンジ（旧庁舎1階）

テーマ：「偉大なる横隔膜：哺乳類とヒトの進化の立役者」

ゲスト：北岡 裕子（株式会社 JSOL エンジニアリング事業部学術顧問(医師、工学博士)）

ファシリテータ：萩原 一郎（日本学術会議会員、明治大学先端数理科学インスティテュート所長）

8 総合科学技術・イノベーション会議報告

1. 本会議

6月18日 欠席

2. 専門調査会

5月28日 第9回基本計画専門調査会 欠席

3. 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員会合

5月28日 欠席

6月11日 出席

9 インパクト・レポート

提言「社会調査基盤のリノベーションに向けた官民学連携研究拠点の構築」 インパクト・レポート

1 提言内容

- ・ 以下の機能を担いうる官民学連携の社会調査研究拠点の構築
 - (1) 社会調査データに関わる情報国際化と研究の国際発信の強化
 - (2) 大規模で国際的に高い意義を担う学術的社会調査の振興
 - (3) 社会調査基盤のリノベーションと信頼しうる社会調査の確立
 - (4) 現代的状況における社会調査の方法に関する学術研究の促進

2 提言の年月日

平成26年6月3日

3 社会的インパクト

(1) 政策

特になし

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

- a) 統計数理研究所において、現在ある「調査科学研究センター」を基盤に、社会調査データの収集、データ解析の教育・啓蒙の促進、調査データの公開などに関わる研究拠点の機能を強化する構想が検討されており、2015年1月15日には、ドイツの元GESIS所長であるW. Jagodzinsky氏らを招いて、「調査科学リサーチ・コモンズの構築に向けて」と題するシンポジウムが開催された。

b)一般社団法人社会調査協会において、2014年11月3日に、NHK放送文化研究所、日経リサーチ、インテージなど社会調査の専門機関からの講師を招いて「社会調査環境の変化と新たな対応」と題するシンポジウムが、また2015年5月16日には、内閣府世論調査室、NHK放送文化研究所、日経リサーチ、新情報センター、統計数理研究所からの専門家を招いて、「世論調査の現状と課題」と題するワークショップが開催された。

4 メディア

特になし

5 考察と自己点検

学協会・研究教育機関、民間の調査機関などにおける提言の理解や意義の認識はしだいに広がりつつあると思われるが、政策レベルや、マスメディアを通じての一般市民レベルに提言を伝えて理解を広げることには、課題が残っている。本分科会の活動は、今期、社会統計調査アーカイブ分科会として継承されており、今期における本分科会の重点項目の一つとして、本提言の実現をめざしての活動の強化を考えている。

インパクト・レポート作成責任者

第22期 社会学委員会 社会統計アーカイブ分科会委員長
盛山 和夫

提言「ケアの時代を先導する若手看護学研究者の育成」 インパクト・レポート

1 提言内容

(1) 作成の背景

我が国は、世界に類を見ない超高齢社会を迎えている。さらに、地球規模の環境劣化に伴い、新興感染症や災害などが生じ、社会が一丸となって取り組むべき様々な健康課題に直面している。そのため、現代の医療には、人々の生活や環境を包括的に捉え、医療と介護の連携、生活支援や環境改善等を含めた多面的なケアの開発を行うことが求められている。看護師は、医療で最も多数を占める専門職集団であり、総合的に人を捉え多面的なケアを担う看護学の発展には大きな期待が寄せられている。看護学がこの期待に応え、現代の健康課題の解決に貢献するためには、関連学術分野との連携と融合に

よる多元的なケアの理念とそれらを具現化する理論・方法論の開発が不可欠となっている。例えば、超高齢社会に呼応できる在宅ケア開発においては、高齢者の安全と安心を確保するため、環境工学やインターネット等のITを活用した新しいケアシステムを開発することが求められている。

看護学分科会では、ケアイノベーション（新しいケアの技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすこと）に対する社会の期待を背景として、喫緊の健康課題の解決に向けて関連学術分野とアイデアや理論、技術等を共有し、ケア開発を戦略的に推進できる若手看護学研究者の育成について討論を重ねてきた。今後さらに看護学が深化・発展を遂げ、閉塞感や不確実性を抱えた現在の健康課題を解決へと導くために、異分野融合研究によりケア開発を戦略的に推進できる若手看護学研究者に必要な環境、体制の整備について提言した。

(2) 現状及び問題点

我が国が世界に先んじて経験している超高齢社会や地震による災害などに対しては、ケアイノベーションをもたらすことのできる異分野融合研究の推進に世界中から大きな期待が寄せられている。看護学分科会によるシンポジウム「ケアサイエンスの必要性和看護学の役割」においても、これからの時代に求められるケアサイエンス探究の必要性和看護学への期待について他学術分野の研究者と共に学際的な意見交換を行った。これまで、長期・複雑化する人々の健康課題に対応すべく、看護学の大学教育化が短期間に進展したが、関連学術分野との連携・融合による挑戦的・戦略的な看護学研究の展開は未だ十分とはいえない。ケアの重要性が高まるこの時代においては、健康課題の解決に果敢にチャレンジできる若手看護学研究者の人材の育成が不可欠となっている。

(3) 提言等の内容

① ケアイノベーションを先導できる若手看護学研究者育成を目指す異分野融合研究・教育環境の醸成

看護系大学では総力を挙げ、若手看護学研究者が実践と研究を有機的に結び付け、萌芽・発展的な異分野融合研究を推進できる研究・教育環境を醸成する必要がある。

(i) 看護学の新機軸創生

ケアイノベーションを異分野融合研究により推進するためには、看護学の枠組みを基盤とし、人間工学、モード2科学など新たな研究方法論に果敢にチャレンジしていかなければならない。ケアの時代を見据え、看護学分科会では、ケアイノベーションに必要な学術領域の新機軸をケア学とし

て創生できるよう検討を継続する。

(ii) 異分野融合による人材育成強化

異分野融合研究を推進するには、長期的な視点で基礎研究、理論生成、方法論開発、ケアシステムの実用化・制度化までを見据えた研究支援体制が必要であり、産官学連携体制の強化が不可欠である。そのための人材の確保方策を記す。

- インターンシップの推進
- 学際的科目編成の工夫
- テニユア・トラック制度の活用
- 明確なビジョンと支援策

②グローバルリーダー育成に向けた看護系大学院の国際教育研究連携強化

若手看護学研究者が「地球規模のケアイノベーション」を先導するグローバルリーダーとして、将来のビジョンの実現に向け戦略的研究に果敢に挑戦できるよう、大学、医療界、産業界、行政などの関係各方面には、積極的な施策実行を求めたい。

(i) 看護系大学院における国際教育研究拠点の恒常的設置

日本看護系大学協議会は、全国の看護系大学院の教育・研究の動向や成果を集約する機能を持つ。したがって、それらのネットワークを基盤に、時代の要請に応じたグローバルリーダー育成のグランドデザインを描き、健やかな社会を持続可能とすることを目指した中長期の目標設定と若手研究者の育成事業について、看護系大学全体として検討することが求められる。

(ii) 交換留学制度（派遣と受入れ）の拡充

若手看護学研究者を対象に、交換留学制度（派遣と受入れ）を拡充し、世界的な学際的研究プロジェクトに参画できる機会を強力に推進するべきである。そのために、大学院において英語教育の強化、帰国後の進路に関する不安を伴わない短期留学制度などが求められる。

③看護系大学院における研究遂行力の強化

大学院及び学部において、TA(Teaching Assistant)やRA(Research Assistant)として豊富な研究経験などを積むことができるよう、チューター制度の活用を強力に後押しする体制を早急に充実すべきである。

④研究環境の整備拡充

(i) 研究所や研究フィールドの整備

看護学系の独立した研究所、また看護系大学に付置する研究所も数は少

なく、物的、人的な資源は極めて乏しい。若手研究者が一定期間研究に専念できる研究所や研究フィールドの整備が求められる。

(ii) ワーク・ライフ・バランスを念頭においた研究者育成環境整備

研究者としてのキャリアを築いていくためには、制度や組織による支援策が必須である。

(iii) 看護系大学院における看護職の学び直し機能強化

実践の場で働く看護職の学び直しができるよう大学院機能の強化と社会的環境の整備が急務である。

2 提言の年月日

平成 26 年 7 月 4 日

3 社会的インパクト

(1) 政策

文部科学省高等教育局医学教育課及び厚生労働省医政局看護課において、本提言の内容に関する意見交換の機会を得た。少子高齢化社会が急速にすすむ中で、ケアの時代を担う若手研究者の育成にむけた、教育・研究環境の更なる改革の必要性和方向性について論議した。本提言は、看護系大学の教員の教育力、研究力の発展に必要な指針を示す意義ある内容として受け止められた。

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

日本看護協会、日本看護系大学協議会、日本看護系学会協議会をはじめ、看護系諸学会において、本提言の公表と同時に HP 等より各会員に対する広報・普及が行われた。それを受け、学会等において「若手研究推進委員会（日本看護科学学会）」「若手研究者交流集会（第 33 回日本看護科学学会学術集会）」など具体的な活動が興っている。研究教育機関では、ケアの時代を担う若手研究者が活動できる新たな研究組織も生まれている。例えば、東北大学大学院医学系研究科と東北大学病院看護部との連携による「東北大学ケアサイエンス共創センター」が活動を開始している。メディアも、新しいケアの技術や考え方を取り入れ、新たな価値を生み出す＜ケアイノベーション＞に関心を示した。

4 メディア

- ・医療介護 CB news（2014 年 07 月 07 日）
- ・週刊医学界新聞（2015 年 1 月 26 日第 3110 号掲載）

5 考察と自己点検

高齢化社会を支える「ケアの時代」の到来を誰もが切実に感じている。そのた

め、「ケアの時代を担う若手看護研究者の育成」の提言は、学協会をはじめ、メディアにおいても改革・発展すべき社会的課題として受け止められた。看護系学会においては、若手研究者の相互交流の場を提供するなど、活発に活動を開始しており、今後、日本看護系学会協議会において、学会を横断した組織的な連携活動に発展することを期待したい。看護系学部等を有する大学は、2015年4月現在、241校となり、全大学の3割に上り、さらに、増加が見込まれるとされている。看護系大学の増加に伴い、看護学の教育研究の質の担保が喫緊の課題となっている。

次世代のケア開発につながる異分野融合研究を推進できる若手研究者をしていくには、看護系の大学、学協会が一丸となって現状の教育研究環境の改革を進めていかなければならない。そのために、大学院のみならず、学部において、早い段階から学際的な教育研究交流が必須となるだろう。具体的には、チーム医療の必要性を実感させるためのIPE（多職種連携教育；Inter Professional Education）や研究者を育てるための“IPR（Inter Professional Research）”の推進が望まれる。

以上の状況を鑑み、看護学分科会では今期の取り組み課題として、「ケアサイエンスの発展」「看護学教育課程編成上の参照基準の検討」「地方創生時代における保健医療福祉に関する看護からのビジョン」の検討を進める予定である。

インパクト・レポート作成責任者

第22期 健康・生活科学委員会 看護学分科会委員長

太田 喜久子